

## ●イントロダクション

コンゴ民主共和国の東側は丘陵（きゅうりょう）が広がり、とても美しい自然豊かな景色が見られます。そして、このように丘の斜面を利用して校舎が建てられているのをよく見受けられます。

私たちはコンゴの内戦状況の悪化やコロナ禍で、長い間コンゴを訪問することができません。本報告で用いている情報や写真は今年の夏にコンゴから送られてきたものです。

## ●コンゴ民主共和国（以下コンゴ）という国

コンゴは長い間ベルギーの植民地として支配されてきましたが、それはベルギー国王の「私有地」（1885年）として統治されました。そのためベルギーの法律は適用されず、極めて恐ろしい人権侵害が起きました。1908年にベルギー政府はコンゴを買い取り、所有権がベルギー政府に移され植民地ベルギー領コンゴとなった。そのような経緯が長いこと続きようやく1959年に独立国家となりましたが、独立後も独立以前の民族対立が尾を引き、内戦が頻繁に起きました。2002年によりやく和平合意が成立しましたが、20年近く経過した現在も、民族間に対立が起り、たびたび惨い内戦がおこっています。武装勢力は約130あるといわれています（反政府組織、民兵、自警団、また警察や国軍のうち独自の行動をするものなど多岐に渡り、だれが自分たちの味方なのかかわからない状態のようです）。

これらの武装勢力の資金源は、地下資源の産出地域を自分たちの勢力下に置き、不法な採掘、密輸により利益を得ています。紛争の大きな要因は、その地下資源の奪い合いです。その戦闘は、先ほどご覧いただいたような美しい村や街中で行われることがあり、多くの国内避難民を生み出しています。その避難民たちは自分が耕していた畑、あるいは畜産などもすべて捨てざるを得ない状態で逃げなくてはなりません。避難先では自分の土地を持たないため、生きるために最低限の食べ物を作ることも出来ず、さらなる貧困に陥ります。例えば仕事があったとしても、低賃金重労働で搾取されるようなものばかりです。私たちにとって想像しがたい貧困は、子ども兵やストリートチルドレンを生み出す要因の一つになっています。

コンゴは一人当たりの国民総所得が年間520ドル（2019年、世銀）と、世界で最も貧しい国の一つです。

## ●北キブ州 Kasando 村（地図参照、正確な場所は調べられなかった）の学校建設支援

Kasando は北キブ州南部、ゴマ市から約250キロ、ブテンボ市から約150キロに位置しています。絶え間ない紛争から逃れた多くの避難民がいるコンゴの中でも最も貧しい村です。Kasando には既に聖マリア女子修道会が運営する学校はありますが、国内避難民の子どもたちを積極的に引き受けているということもあり、生徒数が多くなり子どもたちを収容しきれなくなっていた。二部制の授業が行われたり、時間によって交代で野外授業したりしていたそうです。そのため既存の校舎だけでは満足な教育を与えられない実情があった。市内にはいくつかの学校があるが質がよくないので、聖マリア女子修道会運営の学校に親が入学を強く希望する。子どもたちの親の多くは教育熱心で増築を望んでいた。聖マリア女子修道会は、最も貧しい家庭の子どもに教育のチャンスを与えることを活動の中心に置いている。また、女子教育の重視していて、7割が女子生徒が占めている。

住民の職業：農業、畜産業など 自給自足の生活している家族が多い。Kasando の学校は、主要な町から5kmの場所にあり、子どもたちは朝早く起き、歩いて通学をしている。

初等、中等教育のほかに、成人男性、女性のための社会教育センターも運営している。

●学校建設支援は住民への雇用を生み出した

本来の村人たちも貧しい暮らしですが、避難民として暮らす人々は生活の糧を得る職業に就くことが大変困難です。そこで、このような機会を生かして、そのような人々を雇って仕事に就かせているそうです。

●環境衛生教育を重視

シスターたちは、子どもたちの衛生環境をとっても重要視していますトイレ、シャワールームなども建設される予定になっています。おそらく自分の家に帰ったら、シャワー室やトイレを備える家は数えるほどしかないと思われます。

本来ならば親が教えるべきことなのかもしれませんが、衛生教育の一環として洗濯のやり方、干し方などを教えています。この写真は自分の制服のシャツを洗ったところです。また、世界的に新型コロナのパンデミックの影響で、このように各教室の出入り口に手を洗うタンクを設けられています。

●成人男性、女性の教育重視

聖マリア女子修道会の教育方針として、子どもたちだけではなく、子ども時代に初等教育を受けられなかった男女の青年たちの識字教育やなんらかの技術の習得教育に重点をおいている。この青年たちは家庭に問題（片親であったり、親から虐待を受けていたり）の青少年や、なんらかの理由で全く親がいなく路上生活をしていた青年男女を招き、手に技術をつけさせて独立した生活が送れるようにサポートしている。

人間としての尊厳（すべての個人が互いを人間として尊重する）を保ち、自分自身に自信を持たせるために女性には、縫製技術、男性には大工仕事などの指導を積極的におこない、将来自分たちの生活を管理し、農村の環境整備に貢献できるように訓練している。そして、彼らが尊厳ある家庭を築くためのリーダーとなるよう手助けもしています。新しい教室の中にできたての机と椅子で子供たちが勉強していましたが、あの机と椅子は、ここを終了した青年たちが作ったものではないかと思われます。

このような教育は、自覚が芽生え尊厳ある未来に備えるすべてのことを学び、とても感謝している何人かの女の子を立ち直らせることができました。

●宗教的教育も充実

11月21日はマリアさまの祝日（幼いマリア様の奉献の祝日）には、ニーナ・マリアのお祝いでいろいろな行事が全校で行われる。

●国家試験

中等教育を修了時に国家試験があり、その開始日に教育当局は、テストが入った封筒を他の列席者の前で生徒の代表4人に手渡されます。

●現場が抱える課題（コンゴのシスターから受けたメールから）

2019-2020 年度に政府が開始した基礎教育の無償化は、教育機関を完全に管理する可能性を考えていないので、国民の不幸を助長する状況でもあります。保護者の負担を軽減するために無料にしたのは良いアイデアだが、残念ながら政府は無責任で、教育の質をさらに悪化させている。教師の給料の支払いが困難になる、従って、優秀な教師の流失が起り、教師の質の低下を招く。結局は子たちへの教育の質が悪くなる結果を招く。

●アフリカ管区長からのメッセージ

Kasando の学校建設は、学校関係者、子どもたちの保護者の要望が高まり、今まで少しずつ努力しながら進めてきましたが、それはとても困難な道のりで容易ではありません

でした。しかし、この度、日本の恩人の方々から多大な援助がありこのように学校が建設されつつあります。これらすべての善意が神に祝福されますように。

●補足

聖マリア修道女会の創立者サン・ジャンヌ・ド・レストナックと彼女の叔父ミシェル・ド・モンテーニュは次のように言いました。

「**教育とは、すべての人の中にある新しい人間を生み出すこと**」そして

「**女性を教育する人は家族全体を教育する**」と。

聖マリア女子修道会の精神は、最も困窮している人にもっと焦点を当て、その人々の様々な側面に寄り添いながら、本人たちに喜びを見い出せるように活動することだそうです。

私たちと同様にコンゴ民主共和国を支援している団体が次のようなメッセージを発しています。

「例え紛争状態であったとしても、仕事を作っていくことが、紛争を止める力となり、さらに将来平和になったコンゴを支える人財を育てるためにも必要なのです。それにはやはり**教育が大変重要**です。」

Kids&Smile もその精神に少しでもお役に立てればと思い、皆様のお力を借りて今後も支援を継続していきたいと思っています。